



特集 広報させば 900号記念 ～佐世保市民と共に歩んで900号～

「広報させば」は、昭和26年4月の「させば市政だより」創刊号に始まり、令和7年11月号で900号を迎えました。この間、市政に関する情報や市で起こった出来事、人々の思いなどを一号一号に刻みながら、市民の皆さんと共に歩んできました。

今回の特集では、「広報させば」900号までの歩みを振り返るとともに、制作の裏側やデジタルでの楽しみ方についても紹介します。

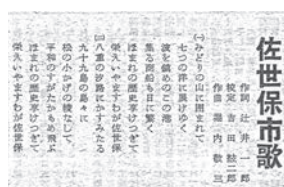
「広報させば」と佐世保の変化

「広報させば」は昭和26年の創刊以降、時代の移り変わりや技術の進歩に合わせて、紙面の大きさやデザインなど少しずつ形を変えながら現在に至ります。ここでは、創刊から現在までの「広報させば」の変化を佐世保の主な動きとともに紹介します。



創刊号(1号)
昭和26年4月

市政への理解と関心を深めてもらうために、「させば市政だより」として創刊。当時は班回覧



昭和27年4月
市制施行50周年を記念して、佐世保市歌を制定。写真は当時の記事



昭和34年12月
佐世保市の人口が市制施行(明治35年)以降最多の265,781人を記録



昭和41年11月
佐世保の中心商店街「四ヶ町アーケード」が完成



70号
昭和32年4月

班回覧から全世帯配布に変更。紙面の大きさはタブロイド判(現在のA4判の約2倍の大きさ)で印刷



446号
昭和63年1月
題字を「させば市政だより」から「広報させば」へ変更。さらに、白黒での印刷からカラー印刷(2色刷り)へ変更



455号
昭和63年10月
紙面の大きさをタブロイド判から現在と同じA4判へ変更。3カ月に1回はフルカラー印刷



642号
平成16年5月
毎月全ページフルカラーでの印刷へ変更。写真やイラストなどを多く取り入れ、手にした人がより読みやすいデザインを採用



881号
令和6年4月
現在のデザインへ変更。デジタルの普及に合わせて、二次元コードの掲載を増やすなど、幅広く楽しんでもらえるよう工夫

創刊当初は市政情報を文章で正しく伝えることに重点を置いたシンプルな紙面でした。その後、印刷技術の発展によってカラーでの発行になり、写真やイラストなどを多く取り入れたより読みやすく親しみやすい紙面へと変化させてきました。また、社会情勢や技術の進歩に合わせて、「広報させば」のデザインや構成なども柔軟に対応してきました。「広報させば」の歩みは、市民の皆さんに情報を届ける手段としてその時代に求められた進化の歴史ともいえるでしょう。



昭和47年4月
市立市民病院と市立北病院を統合し、市立総合病院が開院



昭和58年4月
美術館と博物館の機能を併せ持つ博物館島瀬美術センターが開館



平成4年3月
オランダの街並みを再現したテーマパーク「ハウステンボス」がオープン



平成13年12月
JR・MR一体の高架駅である現在の佐世保駅(3代目)が完成



平成25年11月
佐世保港周辺に大型商業施設「させば五番街」が開業



令和3年3月
九十九島を眺望できる九十九島観光公園が俵ヶ浦半島に開園

「広報させば」制作の裏側を紹介します

毎月皆さんの元にお届けしている「広報させば」は、広報広聴課が制作しており、完成までに編集や校正、印刷などいくつもの工程があります。ここでは普段なかなか見ることのない「広報させば」制作の裏側や作成に携わっている職員へのインタビューを紹介します。

「広報させば」ができるまで

01 編集企画会議



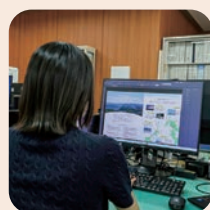
各担当部署から集まった情報をどのページに割り振るかや、記事の配置などについて広報広聴課内で話し合い決定します。

02 取材



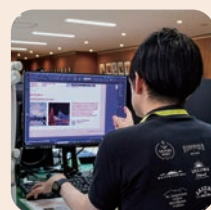
記事の作成に必要な情報を収集するため、関係者などへのインタビューや写真撮影などを行います。

03 作成・編集



各担当部署から集まった情報や取材をもとに、広報広聴課が紙面を作成します。編集には専用のソフトや用字用語集を使用しています。

04 校正



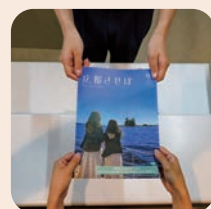
広報広聴課や各担当部署、関係施設など、多くの視点で4回の校正を行います。内容の誤りや誤字などがなく入念にチェックします。

05 印刷



校正が終わった原稿データを印刷業者に渡し、印刷します。色の写り具合もチェックするなど、丁寧に確認しながら印刷を行います。

06 配布



町内会等を通じて、市民の皆さんに「広報させば」をお届けします。各支所や一部の店舗などにも設置しています。

「広報させば」の制作に携わっている職員に話を聞きました

Q 「広報させば」を作成・校正する中で、特に心掛けていることは何ですか？

A 一番は読む人にとって分かりやすい記事になるように心掛けています。特に行政の制度や手続きなどをお知らせする情報の中には行政用語といわれる難しい表現や内容があります。記事を作成・校正する際、できるだけ分かりやすい言葉に置き換えるように気を付けています。また、写真や図表、イラストなどを使って視覚的にも理解しやすくなるように努めています。

Q 「広報させば」に使う写真を撮影する時に心掛けていることはありますか？

A 被写体にピントが合った写真を撮ることはもちろんですが、自然な笑顔や迫力のある瞬間など、見る人にその場の雰囲気や伝わり、親しみを感じてもらえる写真になるよう心掛けています。また、写真を紙面のどこに配置するかで構図などが変わってくることから、紙面とのバランスも意識しながら撮影しています。

もっと身近に、もっと手軽に「広報させば」をデジタルで

「広報させば」のデジタル版では、最新号だけでなく過去の発行号（バックナンバー）も読むことができます。気になる記事を拡大して見たり、キーワードで検索できたりするなど、紙面とは違った便利さがあります。また、「広報させば」に掲載した内容をより詳しくお届けする連動動画も配信しています。

電子書籍

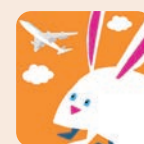
バックナンバー



平成14年度以降に発行した「広報させば」を市HPに掲載しています



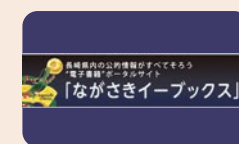
カタログポケット



デジタル版を閲覧できる他、他言語への翻訳や音声読み上げ機能があるサービスです



ながさきイーブックス



「広報させば」を含む長崎県内の広報誌や観光パンフレットなどをデジタル版で閲覧できるサービスです



YouTube

広報させば連動動画



佐世保市チャンネル



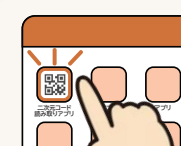
web sasebo city

二次元コードの読み取り方

二次元コードを利用すると、スマートフォンなどからより手軽に「広報させば」をデジタルで楽しむことができます。利用したことがない人や利用方法が分からない人のために、二次元コードの読み取り方を4つのステップで分かりやすく紹介します。



アプリストアで「二次元コード読み取りアプリ」を探し、インストールします



ホーム画面から「二次元コード読み取りアプリ」を開きます



カメラを二次元コードにかざし、画面内にしっかり映るよう調整します



表示された通知やリンクを押すと自動で指定のページが開きます

「広報させば」は、市民の皆さんと市政をつなぐ大切な存在であり、社会の変化や市民ニーズに応じて形を変えながら、その役割を広げてきました。これからも時代に合わせた工夫と挑戦を重ねながら、より分かりやすく、より親しみやすい「広報させば」を目指していきます。そして、市民の皆さんに寄り添い、共にまちをつくる一助となる「伝わる広報」の実現に向けて取り組みを進めていきます。



広報させばへのご意見はこちらから

特集に関する問い合わせ 広報広聴課 ☎ 24-1111